

みいつけた!

福岡県保育協会通信



By mutual confidence and mutual aid,
Great deeds are done, and great discoveries made;
相互信頼と相互扶助にて、偉大なる行為はなされ、偉大なる発見がなさる。
—ギリシアの詩人 ホメロス

第 72 回福岡地方保育事業研究大会-----	2
第 73 回筑後地方保育事業研究大会報告-----	3
第 62 回京築ブロック保育研究大会報告-----	4
新園紹介-----	5
日本乳幼児教育学会第 35 回大会-----	6
専門家による寄稿-----	8
福岡県保育士会発「連絡帳スタディブック」紹介-----	10
コラム・編集後記-----	11

第72回 福岡地方保育事業研究大会

幼保連携型認定こども園 一貴山保育園 園長 田中 茂雄

『地域は子どもを育む大きな家族』

令和7年8月2日 ZOOM ウェビナーにて、第72回福岡地方保育事業研究大会を開催いたしました。大会テーマを『地域は子どもを育む大きな家族』と題し、福岡県磐梯町教育委員会教育長、中川綾先生を講師にお迎えし、多くの接続参加者にて行われました。

昨今の混沌とした社会情勢の中、人々のニーズは多様化し対立や競争が増え続け、社会的なつながりが希薄化傾向にあります。また、技術革新や環境問題など社会全体に影響を与える要因も多く存在します。その中でも少子化は深刻な状況で、出生数は過去最少を更新し続けています。これらの状況を踏まえ、私たちの保育環境も大きく進化を求められています。私たち保育者は様々な試行錯誤を繰り返し、未来を担う子どもたちのために研鑽を積み重ね続けています。その果てしない努力の源にある、子どもたち一人ひとりへの愛情をもう一度見つめ直し、過疎地も、都会でも同じように子どもたちがリスpektされて育つように、やさしさと思いやりが溢れる社会全体で目指しているインクルーシブな世の中を私たちが支えていけるよう、開催するという思いを込めて運営をいたしました。

福岡地方は各地区同士の距離が離れており、特に糸島地区は遠距離となるため集合形態での開催からオンラインでの開催を用意し、講師の先生にも福岡県よりオンラインにて講義を行っていただきました。始めに糸島市保育協会春田克起会長の挨拶を行い、続いて大会会長であります、堤智行福岡地方会長よりたゆまぬ努力を続けている保育園関係の皆様方への感謝の言葉と、子ども達の未来を守っていく決意表明ともなるご挨拶をいただきました。その後、公益社団法人福岡県保育協会会長万田康様より現在の保育行政の将来像と現場の皆様のご努力について主催者挨拶をいただきました。そして、福岡県知事服部誠太郎様より福岡県が取り組む保育施策について、糸島市長月形祐二様より市町村が必要とする施策とその背景について、ご来賓のご挨拶を頂戴いたしました。

また、本年度の会長表彰(一般表彰)受賞者は17名おられまして、お一人おひとりのお名前を読み上げた後に幼保連携型認定こども園福吉保育園山崎彩乃様が謝辞を申し上げます。オンライン開催という事でも表彰への感謝の気持ちは変わらず、これからも子ども達の幸せのために尽力していきますという旨の感動的な



ご挨拶をいただくことができました。

記念講演は「磐梯町における0-15教育基本構想～ちいさなまちのおおきなチャレンジ～」と題しまして、福岡県磐梯町教育委員会教育長、株式会社アソビ代表取締役であります中川綾先生にご講演いただきました。平成17年度から「磐梯の教育」として特色のある学校教育と幼少中一貫教育に力をいれてきた磐梯町は、保育所、幼稚園、認定こども園の一体化に近い連携を基に、小学校だけではなく、中高生までが共に学びを行える「まなびときばんだい」を中心に安心して子育てを行い定住できる施策を行っております。町全員で子ども達の幸せを考え実践していく取り組みと、人口減少地域におけるこれからの将来像を全ての教育現場にてグラウンドデザインを描いていくという素晴らしい公演を行っていただきました。幼児期のみならず成年になるまでの安心した成長を見守り続けるための取り組み、そしてその取り組みが魅力ある地域を創造していくことを実感いたしました。

福岡地方保育研究大会は新しい時代の研修大会のスタイルを模索しております。今回のオンラインでの開催につきましても、多くの方々のご参加をいただくことができました。後日公開しました動画アーカイブへのアクセスも多数確認できております。これからも福岡県の保育を明るくしていくために頑張っていきたいと思います。



第73回 筑後地方保育事業研究大会報告

社会福祉法人斗和園 斗和保育園 園長 中野七朗

『大人もこどもも
みんなイキイキ笑顔』

令和7年10月19日(日)「八女市民会館おりなす八女」の大ホールに於いて第73回筑後地方保育事業研究大会が盛大に開催されました。

本大会の開催に付きましては、主管を担当しております八女地区保育協会の事情を踏まえ、対面式参加型とリモート参加型を取り入れたハイブリッド方式を採用致しました。大会終了後1週間は福岡県保育協会事務局のYouTubeチャンネルを活用し配信致しました。おかげをもちまして、対面式参加とリモート参加合わせて1,300名以上の会員の皆様に参加ご協力を頂きました。

式典には多くの来賓の方々にご臨席賜り、今大会に関する祝辞とともに現場で活躍されている先生方にも多くのあたたかい言葉を賜りました。一般表彰では31名の方が福岡県保育協会会長 万田康先生より、功績が讃えられ表彰を受けました。心からお祝いを申し上げますとともに、今後の活躍を期待します。

研究発表に於きましては、昨今、不適切保育がメディア等で取り沙汰されている中、保育現場の保育士が抱える日々のストレスに着目し、「職員のメンタルヘルス毎日をイキイキと過ごすために」西南女学院大学准教授上村眞生先生のご指導のもと、筑後地方保育協会会員の皆様の協力を得ながら調査研究に取り組んでまいりました。研究方法は無記名で質問にこたえていただき、ストレスの要因を探りました。そのなかで見えてきたことは、地域社会の保育園に対する保育ニーズの高まりはあるものの、それに応えるだけの保育士の確保が出来ていないことが挙げられます。保育現場に於いては保育士の絶対的に不足により1人の保育士の抱える業務が多岐にわたり業務過多となっている。保育士の



抱えるストレスは一面的に捉えることは出来ず、多面的で様々な要因が相互作用して増幅して行くものと思われ、職場の対人関係・時間の無さ(欠如)・処遇改善・園の保育方針のギャップ(ズレ)等があげられるなか、とりわけ保育士不足が大きな要因として挙げられる。保育士の抱えるストレスが不適切保育、ケガ、事故等の動機づけになっている可能性は高いと思われます。

職場における保育士は、自ら保育のスキルアップに努めることは言うまでもないが、ベテラン保育士へのサポートや職場内でのリーダー制の仕組み作りなど工夫が必要であると考察しました。

調査研究をふまえ、上村眞生先生より「こどもも保育者も明日の保育が楽しみになるように」のテーマで記念講演をして頂きました。園の方針を共有し、子どものポジティブな会話を意識し、チームとしての意識を持ち、言葉の意味の共有などコミュニケーションの大切さを話され心に響きました。

講演に入る前の「楽しい」を体で表現するアイスブレイクで心も体もほぐれ会場が笑い声であふれ和みました。

この様に、こどもも保育者も楽しく笑顔で過ごせる明日を工夫したいものです。

開催に当たり、八女市、広川町をはじめ、関係者各位並びに保育協会会員の皆様のご協力を頂きましたこと心より感謝申し上げます。



八津田保育園 園長 加未 宗瑞

『溢れる笑顔に 未来が創られる』 ～乳幼児期に出会う絵本の世界～

令和7年11月23日(日) 築上町文化会館コマーレで、第62回京築ブロック保育研究大会が、多くの来賓の方々や保育関係者など約340名が集い、開催されました。

全国的な出生数の減少に伴い、都市部と過疎地域での定員割れ等の保育所を取巻く環境は厳しさを増しています。このような状況の中、国による子育て支援策が施行されていますが、こどもの成長発達にとって大切なことは、「三つ子の魂百まで」と言われるように、乳幼児期に関わる環境や経験が重要な意義を持っています。

このことを踏まえて、今年度のテーマを「溢れる笑顔に 未来が創られる～乳幼児期に出会う絵本の世界」と題し、絵本との出会いや読み聞かせの効果が子ども達にとって、言葉の表現力の向上、想像力や創造力の涵養、感情の刺激による心の成長、社会性の育成や親子のコミュニケーションの深化などがあるとされています。乳幼児期に出会う絵本の世界が、日々の保育活動を通して、こども達の成長発達に関わっているかを再認識することを目的に開催いたしました。

第1部の式典では、児童憲章朗読に引き続き、大会会長の植田先生の式辞、福岡県保育協会会長の万田康先生の挨拶の後、保育事業に勤続し、その業績顕著な会員を顕彰するための福岡県保育協会会長一般表彰に9名の先生方が表彰を受けられました。表彰された先生方には、この表彰を励みに今後も保育従事者として、益々のご活躍を期待いたします。

表彰後、大会名誉会長挨拶で築上町長の新川久三様から築上町での大会開催お礼と町の子育て施策の取組等の紹介がありました。

また、ご多用の中、多くの来賓の方々にご出席いただき、福岡県知事代理として福祉労働部長の福田邦弘様、



衆議院議員村上智信様の代理秘書木葉靖英様、参議院議員松山政司様の代理秘書酒井雅生様、福岡県議会議長蔵内勇夫様の代理厚生労働環境委員会副委員長佐藤楓様をはじめ、戸成祥平県議会議員、塩田文男築上町議会議員の方々にご祝辞を賜りました。最後には、「花のおさなご」を来場者全員で斉唱し、第1部式典を終了いたしました。

第2部の記念講演では、タレントの徳永玲子氏を迎え、「絵本と子供たちが教えてくれたもの」と題して講演をいただきました。徳永氏は福岡県太宰府市出身で、福岡を拠点に、九州の朝の顔として現在に至るまで25年間KBCテレビのメインキャスターとして活躍中です。

講演で徳永氏は絵本を作ったり、読み聞かせ活動がされていることのお話があり、その後、徳永氏ご自身が作った絵本を豊かな表情と話術で朗読されて、読み手の表現力・姿勢などがいかに聞き手に影響を与えているかを知らされました。また、徳永氏の経験や体験を通して、いのちの大切さや尊さ、当たり前のことが本当は有り難いことである。こどもと関わる保育従事者は、心と身体が健康であること、そして何事も楽しんで取り組むことの大切さをこの講演で学びました。

最後に本大会の開催にあたり、京築保育協会、大会役員、実行委員と築上町7園の職員の皆様方の多大なご尽力を賜り、無事成功裏に開催でき、誠に有難うございました。心から感謝申し上げます。大会の報告とさせていただきます。



新園 紹介



社会福祉法人二見中央福祉会 たいよう保育園 園長 浦田富士也

開園のごあいさつ

このたび、たいよう保育園は令和7年4月1日に、福岡県糸島市浦志に開園しました!

ここに至るまでの歩みを振り返りながら、皆さまへご報告とご挨拶を申し上げます。

たいよう保育園を運営する社会福祉法人二見中央福祉会は、昭和33年に熊本県八代市・正福寺で保育所を開設したことを原点とし、65年以上にわたり地域福祉に携わってまいりました。創設以来、基本理念を変えずに守り続ける一方で、時代や社会の変化には柔軟に対応し、こども、保護者、職員、そして地域の皆さまに喜んでいただける保育・教育活動を積み重ねてきました。その歴史と理念は、たいよう保育園の開園に向けた大きな支えとなっています。

近年、日本では少子化が進み、子どもを取り巻く環境は大きく変化しています。保育所利用児童数がピークを迎えるとされる2025年問題や、保育ニーズの多様化など、保育現場にはこれまで以上に質の高い対応が求められる時代となりました。また、こども基本法の施行により、子どもを権利の主体として尊重する視点がより重視されるようになってきました。こうした社会情勢を踏まえ、たいよう保育園では、子どもたち一人ひとりが安心して過ごし、主体的に育つことができる環境づくりを目指して準備を進めてまいりました。

糸島市は、海や山、田園が調和した自然豊かな地域であり、子育て世代の移住も増えている活気あるまちです。地域のつながりが強く、子どもを地域全体で見守る文化が根付いていることも大きな魅力です。この恵まれた環境の中で、たいよう保育園が子どもたちの育ちを支える場として根つき、地域の未来をともにつくる存在となれるよう努めてまいります。

また、子どもが生涯にわたる人間形成にとって極めて重要な時期にあることを踏まえ、私たちは子どもの発達要求に応答する環境を整え、「保育園はたのしい」と心から感じられる園づくりを目指します。遊びや生活の中で、子どもたちが自分らしく過ごし、安心して挑戦できる場をつくることこそ、私たちの使命であると考えています。

開園にあたり、糸島市役所をはじめ、関係行政機関の皆さまには多大なるご支援とご指導を賜りました。申請手続きや施設基準の確認など、丁寧にご対応いただいたおかげで、安心して準備を進めることができました。ここに深く感謝申し上げます。

開園の日、子どもたちの笑顔と保護者の皆さまの温かいまなざしに触れ、この園が地域にとって必要とされる存在でありたいという思いを改めて強くいたしました。人口減少が進む時代だからこそ、子どもたち一人ひとりの育ちを丁寧に支えることが、地域の未来をつくることにつながると感じています。

たいよう保育園は、二見中央福祉会の歴史と理念を受け継ぎながら、地域に開かれた園として、保護者の皆さま、地域の方々とともに子どもたちの成長を支えていきます。ICTの活用や教育的プログラムの充実など、時代の変化に合わせた取り組みも積極的に進めてまいります。

開園はゴールではなく、ここからが本当のスタートです。これからも「たいようのようにあたたかく、子どもたちを照らす園」であり続けられるよう、職員一同、心を込めて保育に取り組んでまいります。今後とも、たいよう保育園をどうぞよろしくお願い申し上げます。



日本乳幼児教育学会 第35回大会

別府つくし保育園 平河 九十美

1・2歳児の主体的で安全な保育環境を整える ～子どもの遊び環境の可視化への挑戦～

2025年12月14日(日) 西南女学院大学にて日本乳幼児教育学会第35回大会が開催されました。私たち福岡県保育士会調査研究部会は、大会シンポジウムに登壇させていただきました。

これまで私たち研究部会は令和4年から「1・2歳児の主体的で安全な保育環境を整える」～子どもの遊び環境の可視化への挑戦～をテーマにして研究に取り組んできました。令和6年11月には、第57回全国保育士会研究大会において研究発表を行い、みつけた! 40号(令和7年3月6日発行)にて報告しました。引き続き取り組んできた研究について報告します。

健康で安全な子どもの育ちを考えるには、事故防止の「守る目」とともに発達機会を制限することがないように「育てる目」も必要です。子どもの行動を「あぶない」と制止する前に、子どもが遊びこめるような環境を整え、個別の計画や個々に応じた環境を見直し、改善をはかることにより高いチーム保育につながるのではないかと研究を進めてきました。

報告1 身体活動量測定

身体活動量測定では、時に保育者が使う「単語」や「文章」「見えているもの」が異なり、お互いの意図を理解しあうことが難しい場面もありました。それは保育者の性質や価値観によって、「子どもの行動は危険だ」「この行動は大丈夫」「子どもの気持ちを尊重して見守ろう」など保育者によって、重視したい思いや子ども一人ひとりの背景の読み取りに違いがあるためと考えられます。運動量の高い低いだけで判断するのではなく、月齢や主体性、発達段階を考慮し、保育者間で共通認識を持ち保育することで、子ども一人ひとりの能力に配慮したかかわりが生まれ子どもの身体活動量が変わることが分かりました。



多軸加速度計 (GOLETA ネットワークス株式会社)

報告2 ループリック型保育環境評価票

ループリック型保育環境評価票を作成し、同じ基準で子どもや保育を見ることで意見の共有がしやすくなりました。この評価結果を定期的にクラス間で共有す

ることで、視野の広がりが期待できます。他者の良いところを真似たり、自ら変わろうとする姿勢からその力が醸成されるものと考えます。しかし、言葉にできない暗黙知や自己評価が客観的に行えないなど評価者の主観に左右されやすいという課題も明らかになりました。

ループリック型保育環境評価票を使用して得たこと

- *あまり時間をかけずに子ども観を共有する手段として **有効**
- 評価を共有することで..
- *視野の広がり・他者からの学び・自ら変わろうとする姿勢
- ⇒自分自身を客観視する力が **醸成**

保育者のかかわりの質が環境そのもの！
人的環境の質が、そのまま子どもの育ちの質につながる！



報告3 視線計測

視線計測では、目まぐるしく動く保育者の視線の先には、子ども、他の保育者、危険な場所等があり、それぞれの保育者が動いている子どもや保育者の情報を常に注視しながら保育を行っていることが分かりました。保育中には、保育者が意図的に見ようとしてみているもの、また逆に、無意識に見ているものがあることが分かりました。自分の保育を実際に見ながら、この時どう思うかこの行動をしたのか、また普段の自分の保育観や思いを交えて自身の保育を客観的に見ることができ、新たな発見もありました。自分の保育を振りかえるよい機会になったと考えます。

研究方法

- 対象者: 4園の1・2歳児クラスの担当保育者7名
- 使用機材: Tobii Pro Glasses 3 (トビー・テクノロジー社製)
- 調査期間: 5日間の測定期間中、1日15-30分間視線測定器を装着して撮影を行った
- 撮影場面: 1・2歳児の身体を動かして遊ぶ保育活動場面
保育全体をを広角に記録するためにビデオカメラで撮影を行った
- 分析場面の選定: 園長・主任が5分程度×8本の動画に選定した
- インタビュー: 5分程度×視線画像と広角画像を見て
保育行為の意図や保育のねらいについて半構造的インタビューを行った



報告4 保育者の行為の意図や根拠の可視化

3つの研究から保育者の行為の意図や根拠の可視化について検討しました。

いずれの研究でも保育の可視化を試みましたが、各研究で見えるもの、見えないものがありました。そこで3つの研究の特性を活かしながら、事例を用いて1才児クラスS児と担任T保育者に注目して、保育内容、保育者のかかわり方、子どもの状況等(心情、体調)を分析しました。

主任の評価とT保育者の関わり

T保育者は、子どもの気持ちを尊重したいが、S児

の身体の使い方が不安定なことから時折「しないでね」と声をかけることがありました。ループリック評価の「安全の配慮」について『対象児が安全に過ごせる環境について考えているが、対象児の行動に「～したらだめ」「～を使ってはだめ」など行動を制限することが多い』と評価していました。主任はT保育者がS児の遊びを尊重したい思いと自身の制止してしまう対応に悩んでいることが分かりました。そこで主任はT保育者と言葉かけや対応などについて話し合いました。主任は、T保育者が子どもの怪我や事故を起こさないように配慮するあまり、子どもの活動を制限する傾向にある保育士と評価していました。

1・2歳児の主体的で安全な保育環境を整える ～子どもの遊び環境の可視化への挑戦～

結果

視線計測から見えたT保育者の成長

- 子どもの気持ちを受け止める
- 興味や関心に寄り添う
- 安定した情緒の中で遊べるように配慮
- 子どもの姿を認める言葉かけ
- 保育者連携

あぶないダメ! → ここがあいてるよ!

T保育者: 自分の立ち位置をずらす → 安全への配慮 危険がない空間や距離の考慮

ループリック評価共有からの気づき!

徹底的配慮を行い、写真活用しています

ところが3カ月後、主任が視線計測の結果を分析したところ、T保育者は「あぶない、ダメ」という言葉ではなく、「ここがあいてるよ」と子どものジャンプしたい気持ちを受け止め、自分の立ち位置をずらしながら子どもの着地を支える姿がありました。

また、T保育者は着地の安定しないS児に合わせてマットの高さを調整し、テープ止めをするなど、危険がない空間や距離を予想してマットを設置していました。さらに多くの子どもが遊び始めると、他の保育者にさりげなく声をかけてフォローをたのみ、子どもが安全にあそべるように配慮していました。S児の気持ちがのらない場面でもS児のジャンプの着地ができた際には「よく跳べたね」と、安定した情緒の中で遊べるような配慮がみられました。視線計測の映像では、T保育者が丁寧に関わることにより次の遊びへ気持ちを向ける姿が確認できました。主任はT保育者の視線計測を視たことでループリックと身体活動の結果が保育に反映され実践していることが分かりました。このことからループリックと身体活動で分からなかった(見えなかった)S児の主体性を育みながら安全への配慮をして子どもに関わるT保育者の成長がわかる事例でした。

この事例からは、それぞれの3つの研究が補完しあいながら、保育者が子どもを様々な側面から多面的に理解しようとする姿がみられました。自らの保育を客観的に振り返り、自身の保育行為についても多面的に可視化していくことで、主体的で安全な環境づくりに

寄与することができるのではないのでしょうか。



大阪総合大学大学院教授・学長の大方美香先生からも、「保育者が愛情深く子どもと関わることで子どもの自己肯定感を育み、子どもの意欲の育ちにつながる。職員同士の対話がチーム力となり、子どもの人権を守ることにつながり、それが保育者の質の向上に結びつくのではないかと。さまざまな価値観をもった保育者の関わりや働きかけは、子どもの主体的な活動を支え、保育観の醸成と根拠のある実践にむけた資質向上につながる研究であった。」と励ましとお褒めの言葉をいただきました。

九州産業大学准教授の田中沙織先生は、平成26年からご指導、助言をいただいています。私たち研究部員が保育に携わりながら、目指す保育と現場の保育で悩み葛藤する姿を支え、共に歩んでくださっています。改めて感謝申し上げます。

また、応援のために参加して下さった福岡県保育協会保育士会の仲間達の温かいまなざしを受けて、無事に発表を終えることができました。今後も研究部員とともにこの研究を現場の保育に活用できるよう検討し「福岡県内の保育者の質の向上」を目指し、安全に子どもが主体的にのびのびと遊べる環境の構成について継続して学び続けたいと思います。

本研究にあたりいろいろとご協力・ご尽力いただいた施設長の先生方、職員の皆様に紙面を借りてお礼を申し上げます。



左から、大方美香(大阪総合大学学長)
平河九十美(別府つくし保育園主任保育士)
江村優(つぼみ保育園主任保育士)
深野妃砂子(きのみの森こども園園長)
石田由香(水巻町第二保育所所長)
田中沙織(九州産業大学准教授)

触探索から探究へ

being – becoming – belonging

ウェルビーイングな応答的關係性とは

福岡女学院大学人間関係学部・大学院人文科学研究科 教授 坂田 和子



はじめに

この度は、研究紹介という貴重な機会をいただきありがとうございます。私は、発達や認知といったこころの仕組みを、明らかになった事実をもとに実践へ活用することを考えると同時に、実践の場から学びながら、両者の架け橋となるインタープリター（通訳者）として物語る存在でありたいと願っています。「実践ですぐに活用できそうなもの」あるいは「実践を支える基礎となる研究」いずれも価値の高い研究ですが、本稿では、子どもも大人も「人」を真ん中に据え、それぞれのウェルビーイングを大切にしたいヒトの基礎研究をご紹介します。このことを「あたたかく」お受け入れいただいたことに大きな力を得、その「あたたかさ」に背中を押されながら、本稿では、私の研究の根底にある「あたたかさ」に根差した乳幼児の触探索から児童期への探究を、大切なワードとともに紹介します。

あたたかさはヒトのこころのあらゆる領域で安心をもたらす

ヒトを含む動物の多くは、さまざまな刺激を皮膚等を含む体性感覚から得ています。体性感覚のひとつが触覚です。あたたかさを含む感覚です。特に発達の初

期、社会的動物であるヒトは、全身で環境に触れ、自分で確かめ、身体と環境で対話し、touch(触)を通して身体的・情動的安心の感覚を積み重ねていきます。はじめは受動的だった触の探索は、次第に能動的になり、能動的な触探索は探索し続ける過程で多くの情報を得ることに成功します。能動的な行動は、次の探索に向かい、気づき、確かめていく過程で「確かめたい」内発的な動機から自発的な行動へ。このように、主体性の基盤となる触探索(皮膚触、情動触)から自発的な探索へ、そして関係性から育まれていく「わたしらしさ」と社会的触について、①姿を丁寧にみとるための観察法、②一定条件下の因果や関係を確認する実験法、③可視化されにくいこころの働きをとらえる生理・脳機能計測を、目的に合わせ組み合わせ、どのように社会実装していくかを考えています。

触覚は世界と直接間接的に関係性から理解する
ロバストな感覚

触覚は「人と環境の直接知覚」としてロバスト(原始的、安定的)であり、快・不快、そして安心といった感覚感情に近い経路と結びつきやすいと考えられています。触れれば対象の情報が得られるという、環境(対象)との直接的な接点があるからです。



身体-環境-対象との関わり(ダンゴムシ)



観察から事実を分析する観察法



社会的な触：喜びを共有する1年生



人に教えたくなる手と手



脳の機能計測からこころを可視化する

触覚は子どもも大人も用いる安定した情報獲得手段であり、たとえば子どもに熱がありそうとき、私たちは手で額に触れて確かめます。とりわけ乳児期は、物を口に入れたり手で周囲に働きかけたりといった触探索を行いながら、環境を確認し自分との関係を調整していきます。特に、状況や条件が変化しても、もう一度触れて確かめられることは触覚の大きな強みです。同じことを繰り返す、偶然起こる出来事や予測をもった働きかけを通して、周囲の安定性や法則を感じ取っていきます。

さらに、安定性を支えるうえで欠かせないのが、感情・行動・生理状態の調整を他者との相互作用の中で行っていく共同調整です。子ども一人ひとりが「ここは安心だ」と感じられる環境の中で、応答的な関係性を基盤に自己を表現し、他者とのやりとりの中で「わたし」らしさが立ち上がっていく過程は、ジョイントネスやアタッチメントのような安定した関係性を背景に展開します。共同調整は触れることに限らず、声・視線・近接・タイミングなど、触れない状況でも、保育者へアクセス可能で応答的であれば成立します。

触覚は対象理解の手段である以前に、状態を整え探索を可能にする条件であり、保育における「安全」「安心」と応答的關係性は、探索と探究を持続し、「わたし」らしさを育むための状態条件となります。

探索・探究から学びを自分で調整できる力へ

このような条件が整うと、子どもは環境に対して能動的に、自発的に働きかけ始めます。この時に子どもが学んでいるのは、対象の性質理解そのものというより、身体と環境の関係です。アフォーダンス理論では、環境が行為者(子どもなど)に提供する行動や利用可能性や意味から環境を論じますが、この観点から、その環境が子どもの発達に即しているものか、触れたいと思う性質や環境構成かという保育環境への示唆が得られます。写真では、子どもの手のひらにダンゴムシが防御反応を解いている様子がみられます。ダンゴムシとの関わりで、子どもはダンゴムシが動きやすいよう両手でやさしく包み込んでいます。

また、子どもが遊びに夢中で没頭(フロー状態)する背景には、「面白い」「好き」が原動力としてありつつ、自律性(自分で選んでいる感覚)、学びへの欲求(やってみ

たい)、有能感(うまくいった)、関係性(つながり)の感覚が同時に満たされることが関わります。内発的動機づけからの自発性(心が動く)、自己選択から自己決定へというプロセスは、小学校以後の段階で、自ら学習を計画し、実行や振り返りを行いながら調整していく自己調整学習へとつながっていきます。

応答的關係性とウェルビーイング

ではこれらの過程を支える応答的な関係性と、本稿のタイトルに掲げたウェルビーイングとの関係はどのようなのでしょうか。

ウェルビーイング(Well-being)という概念は、「よい-状態」を身体的・精神的・社会的(バイオサイコソーシャル)全ての観点でとらえる包括的な幸福を指します。WHOの定義からは身体的・精神的・社会的に良好な状態であり、心身と社会的つながりが満たされた状態という多次元の福祉を指します。このような「よく-生きる」状態は、個人の内面だけで完結するものではなく、関係性の中で形成されると言えます。その人がその人らしく「よく生きている」状態が目指される中で、あらゆる触や応答的關係性を条件とする共同調整、安定感や安心感は大きな要素となります。

「わたし」らしさを育む過程、探索から探究へ組織化されていく「なりつつある」過程では、「いまここにある姿(being)」が、その関係の中で安心して「わからない・むずかしいと言える」「助けを求めてよい(援助要請)」という、「ここにいってもよいと思える感覚(belonging)」に支えられ、再挑戦が保障されながら、「なりたい姿(becoming)」になっていきます。援助要請は言語だけで視線やつぶやき、身ぶり、接近などの非言語情報からもみえてきます。

ウェルビーイングな応答的關係性は、安定や安心を伝える「あたたかさ」を。わたしも、わたしたちにももたらしてくれます。

最後に、喜びをわかちあう社会的触コミュニケーションの写真をご覧ください。あたたかい関係性とは何か、その関係性がでてくる条件は何か。写真から子どもにとって意味のあることをみとり、感じて、あたたかくつながり合いたいものです。



社会的な触：てとてとて

福岡県保育士会発

連絡帳スタディブック 家庭に寄り添う保育を目指して

ミネルヴァ書房 B5判 152頁 定価2,420円(税込) 2025年3月刊行

松井剛太氏
香川大学教育学部准教授
こども家庭庁各種調査研究等委員
推薦!

保育の質は実践だけ?
否、連絡帳にも「質」はある。
実証研究のエビデンスから
良い連絡帳の内容と
活用の方法がわかる。
保育の喜びを保護者と
共有するための
「記述」が変わる必読書。



自ら成長したい保育者を
応援するため、
福岡県保育士会が行った
調査・研究の成果を書籍化
保育者の専門性向上のポイントを
ギュッと1冊にまとめました!

《編著者紹介》

田中沙織 編著
九州産業大学人間科学部子ども教育学科准教授

上村眞生 著
西南女学院大学保健福祉学部福祉学科准教授

福岡県保育協会保育士会 著
福岡市保育所連盟、福岡県日本保育協会、福岡県私立保育連盟が1つとなり、2011年4月に福岡県から認定を得た公益法人のなかの専門部会。行政等と連携協力を回り、子どもの健やかな育ちや、保護者の子育てを応援しています。

保育現場において連絡帳は、
家庭との連絡ツールとして、
また保育者が自らの保育を振り返り、
保育者としての専門性を向上させる
機会として重要なものです。

保育の喜びを保護者と共有し
子どもの姿を「視て書く」



福岡県保育協会保育士会の調査研修部会が行った
連絡帳についての研究の成果をまとめたものです。
良い連絡帳とはどのようなものかを検討したうえで、
保育場面の動画を素材に
記述の演習ができるように構成しています。

本の概要は
こちらから!

—《福岡県保育士会発:連絡帳スタディブック》注文のご案内—
福岡県保育士会を通してご購入いただける場合には、
本体価格に著者割引(20%OFF)を適用させていただきます。

◆価格1,936円(税込)

※送料・振込手数料はご負担ください。

ご購入のご希望がございましたら、保育士会事務局までお問合せください。



福岡県保育協会保育士会事務局

福岡県春日市原町3丁目1-7 クローバープラザ6階

電話:092-582-7957

FAX:092-582-7956

column

元異業種会社員が 保育業界6年を経て見えた 手書き文化とICT化の現在地

幼保連携型認定こども園 五所こども園 園長 齋藤 圭英



異業種から保育の世界に入り、最初の2年間は副園長として現場に関わり、その後、園長として4年が経ちました。立場は変わりましたが、この6年間で一貫して向き合ってきたテーマの一つが、保育現場に根付く文化と、ICT化との向き合い方です。

副園長として初めて保育現場に入った頃、私が強い衝撃を受けたのが、書類の多くが手書きで行われていたことでした。前職では、業務の記録や情報共有はデジタルが当たり前でした。連絡帳、日誌、指導計画、会議記録まで手書きである状況に、「なぜここまで時間をかけるのだろう」と率直に感じたのを覚えています。

当時は、ICT化を進めれば、職員の負担が軽くなり、保育に集中できる時間が増えるはずだと考えていました。しかし、副園長という立場で現場に近く関わる中で、手書きには手書きの意味があることを知りました。記録には、子どもの些細な変化や感情、保育士自身の振り返りが丁寧に書き込まれており、手書きは保育の質を支える大切なプロセスだったのです。

その理解を持ったまま園長となり、4年間かけて取り組んできたのが、職員と対話を重ねながら進めるICT化(同時に認定こども園への移行)でした。目的は

「手書きをなくすこと」ではなく、「保育を支える環境を整えること」です。試行錯誤の末、現在では、ほとんどの職員がタブレットやノートパソコンを使用し、書類はすべてクラウド上で管理・保存しています。

記録や計画書、会議資料、園内の情報共有もデジタルで完結し、必要な情報にすぐアクセスできる体制が整いました。園児の出席状況も一目でわかります。書類を探す時間や転記作業が減ったことで、職員からは「業務に余裕が生まれた」「見通しを持って保育に向き合えるようになった」という声も聞かれています。

現在、園内では手書きの書類は“ほぼ”ありません。しかし、それは効率だけを追い求めた結果ではありません。かつて手書きが担っていた「振り返り」や「気づき」を、どのようにデジタルの中に残すかを意識してきました。ICTは保育を変えるための目的ではなく、保育の質を守り、高めるための手段であると考えています。

異業種から保育の世界に入り、副園長として現場を知り、園長として組織を支える立場になった今、ようやく文化と変化のバランスを考えられるようになりました。手書き文化に驚いたあの日の経験は、ICT化が進んだ現在も、私の判断の原点として生き続けています。



【編集後記】

日々の保育は、決して派手なものではありません。しかしその一つ一つに、子どもの育ちを支える大きな力が込められています。けれど、その尊さは伝えようとしなければ、見過ごされてしまいます。私は今、「保育士はすごい」ということをどう発信していくかを常に考えています。言葉にすること、形にして届けること。それは簡単ではありませんが、だからこそ一人ひとりの思いや日常に目を向けたいと思います。「みつけた!」が、保育の価値を見つけ、そっと社会へ届ける存在であり続けられたら幸いです。

広報部会 大橋



発行日 令和8年3月9日
発行者 万田 康
編集者 塚本 泰有
発行元 公益社団法人
福岡県保育協会
春日市原町 3-1-7

TEL 092-582-7957
FAX 092-582-7956

[全私保連推奨] 各種団体保険制度



有限会社ゼンポ



公益社団法人
全国私立保育連盟



東京海上日動

ほいくのほけん・こどもえんのほけん

保育施設向け 4月1日～1年間（中途加入可能）

Web
加入
可能

「園賠償責任保険」「園児団体傷害保険（学校契約団体傷害保険）」
「職員団体傷害保険（総合生活保険）」など、保育施設における最大
リスクを補償する1番の主力保険制度です。

やくいんのほけん

社会福祉法人向け 8月1日～1年間（中途加入可能）

Web
加入
可能

社会福祉法人の役員の業務遂行に関する賠償リスクやマスコミ対応費
用等のレピュテーションリスクに加えて、雇用関連トラブルによる法人
への賠償リスクもオプション付帯可能な保険制度です。

えんじのほけん

在園児向け商品 4月1日～自動更新（中途加入可能）

Web
加入
可能

「園内外問わず24時間お子さまをお守りする傷害保険」「扶養者に万が一
の場合の育英費用補償」など手厚い補償内容に加え、一般的な保険商品
と比較して約65%の割引となっているため非常に割安な保険制度です。

しょうがくせいのほけん

卒園児向け商品 4月1日～自動更新（中途加入可能）

Web
加入
可能

24時間のおケガ等からお守りに加え、学校からの貸出タブレットを
含め個人賠償責任保険など卒園後のリスクを補償します。本商品も一般的
な保険商品と比較して約30%の割引となっているため割安な保険制度です。

取扱
代理店

有限会社ゼンポ

TEL : 03-3865-3881
FAX : 03-3865-2806



引受
保険会社

東京海上日動火災保険株式会社

担当課支社：公務二部 文教公務室 TEL : 03-3515-4134

このご案内は施設賠償責任保険・生産物賠償責任保険・学校契約団体傷害保険特約付帯傷害保険・会社役員賠償責任保険・レピュテーション費用保険（レピュテーション費用特約条項付）費用・利益保険・雇用関連賠償責任保険の概要・団体総合生活保険（傷害保険）の概要についてご紹介したものであり、全ての事項を記載しているものではありません。保険の内容は各保険制度のパンフレットをご覧ください。また、ご加入にあたっては、必ず「重要事項説明書」をよくお読みください。詳細は契約者である公益社団法人全国私立保育連盟にお選する保険約款によりますが、ご不明点がありましたら、取扱代理店または保険会社までお問い合わせください。

連絡先



公益社団法人全国私立保育連盟指定／東京海上日動火災保険株式会社代理店

有限会社ゼンポ

TEL 03-3865-3881
FAX 03-3865-2806

〒111-0051 東京都台東区蔵前4-11-10全国保育会館4階

無制限の動画や写真を通して、園と保護者の絆を深める連絡アプリ

全国私立保育連盟推奨（総代理店）



きっずノート

「きっずノート」は長く使い続けていただけるよう

初期費用0円・登録者数無制限

すべての機能使い放題

月額 5,500円(税込)

無料体験実施中!



お申し込みは
コチラ



ご相談・ご質問はお気軽に

きっずノートサポートセンター

TEL 03-3865-3886